

各位

「医薬品の調剤・ピッキング時におけるバーコード照合ログの標準化と医療安全への寄与に関する研究」への協力をお願い

【背景と目的】

現在、医療現場では DX 化が進み、バーコードを用いた医療安全の確保が一般的となっています。しかし、医療用医薬品バーコードの活用については、大病院を中心とした報告に留まっており、中小病院を含めた幅広い施設での定量的なデータ蓄積が依然として課題となっています。本研究班では、調剤機器やピッキングシステムから出力されるログデータを標準化し、医療安全および業務効率化の観点から、施設を超えた詳細な分析を行うことを目的としています。

【調査協力をお願い】

本研究の趣旨にご賛同いただける施設におかれましては、以下の調査へのご協力をお願い申し上げます。

1. 標準調剤ログ抽出アプリの導入とデータ提供: 本研究の一環で調剤機器ベンダーの協力のもと開発された「ログ抽出プログラム」を貴施設のシステムに導入いただき、日々のピッキング照合ログ(標準形式)を抽出・提供いただきます。なお、抽出期間等については別途ご案内いたします。なお、研究終了後、導入したプログラムについては引き続きご使用いただけます。
2. 運用の実態に関する調査: ログデータの背景を正確に把握するため、貴施設でのバーコード運用ルールや活用状況に関するアンケート調査にご回答いただきます。

【募集対象施設】

- 特定の規模に偏らないエビデンスを構築するため、大規模病院だけでなく、中小病院を含め、幅広く募集いたします。
- 利用されている調剤機器ベンダーを問わず、多様な環境からのデータ収集を目指しています。
- システム環境や施設規模のバランスを考慮して協力施設を選定する予定です。

【提供いただくデータについて】

提供いただく情報は、ピッキング開始日時、処方受付日時、ピッキング者 ID、処方箋区分、処方箋識別コード、行番号(Rp 番号など)、ローカル医薬品コード、ローカル医薬品名、コード区分、標準医薬品コード(YJ コード or レセ電コード)、標準医薬品名、棚番号、読み込み年月日・時刻、読まれたバーコード、ロット番号、有効期限、読まれたバーコードのローカル医薬

品名、読まれたバーコードのコード体系、読まれたバーコードの標準医薬品名、読まれたバーコードの包装規格単位、読み込まれた医薬品の棚番号、照合結果 になります。したがって、患者 ID や患者氏名は含まれません。

なお、協力に対する費用負担や協力金の支給等はありません。

【データの取り扱いについて】 収集されたログデータは、個人情報や施設情報が特定されない形で研究報告・学会・論文等で公表の予定です。なお、本研究は亀田医療大学 研究倫理審査委員会において倫理審査手続きの対象外である旨を確認しています。

【スケジュール(予定)】

- 2026 年度上半期：施設のご協力の依頼、「ログ抽出プログラム」の導入
 - 2026 年度下半期：実際のログデータ収集、および分析の実施
- ※「ログ抽出プログラム」については、対応する調剤機器ベンダーが導入予定です。

【注意事項】

- 本研究参加時に登録いただいた情報は、利用されているシステムのバージョン等の確認のために、回答された調剤機器ベンダーと共有させていただきます(それ以外の調剤機器ベンダーへの情報提供はしません)。
- 参加登録いただいても情報システムのバージョンなどの違いによりご参加いただけない場合もあります。

【お問い合わせ先】

〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840 番地

TEL 0744-22-3051 FAX 0744-29-8027

奈良県立医科大学附属病院 薬剤部

厚生労働行政推進調査研究

「医療機関等における医療用医薬品バーコードの
利活用均てん化に関する研究」

研究代表者 池田 和之